各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	川満芳信	所　属	農学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部担当科目(作物生理学、熱帯作物学)、大学院担当科目(作物学特論、作物学特別演習、熱帯植物生産学特別演習、熱帯植物生産学特別研究)を担当するとともに連合農学研究科の特別セミナーを提供する。	0.40	講義ではカラー資料を配布し、関連分野の基礎知識を容易に理解できるよう工夫した。また、毎回学生から講義内容に関する意見や質問を聴取し、講義の改善に役立てた。卒業研究に対しは、学生の興味を引き出す様心がけ、学生の主体性を尊重しながら計画立案から研究遂行、論文作成まで、きめ細やかな指導を行った。
研究	0.40	大学院博士課程の2学生の研究論文の学会誌への投稿，採択を目指す。SATREPS（JST/JICA）プロジェクトを4月から向こう5年間スタートさせるが、ボツワナ国に応用できる新技術の研究開発に努める。3名のポストドッグ，１名のJSPS研究員の論文作成を積極的に援助する.	0.40	大学院博士課程の2学生の研究論文は現在投稿準備中で、採択には至っていない。SATREPS（JST/JICA）プロジェクトをスタートさせ、特命助教を1名ボツワナ国に派遣した。2名のポストドッグは2報の論文を投稿し、1名のJSPS研究員は4報の論文を投稿できた。
社会貢献	0.05	沖縄県内唯一の農業関連学会、「沖縄農業研究会」の定期総会と一般講演会を沖縄県農業研究センターで8月３日に実施する。また，雑誌「沖縄農業」の査読化を軌道に乗せる．沖縄型植物工場研究会の総会と講演会を開催する（6月予定）.	0.05	沖縄農業研究会、沖縄型植物工場研究会、沖縄農業研究会50周年記念事業を成功させた。
管理運営	0.10	学部内委員会の委員として勤め上げる．特に，研究者としての本領を発揮できる職場環境を整える様、努力する．全学の委員会委員として月一回の委員会活動に積極的に参加する。	0.10	学科の委員長として勤め上げた．研究者としての本領を発揮できる職場環境を整える努力をしたが、執行部の理解が得られなかった．全学の委員会委員として2年間の任期を全うした。
進路指導	0.05	学部卒業予定者7名の進路に関する情報を提供する。また，1年次の年次指導教官であるが，1・3研修などを通じで情報を提供する.	0.05	卒業生7名中5名は進路が決定したが、1名は留年、1名は未定である．ポストドッグ1名の就職が決定した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	諸見里　善一	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	学部担当科目，食・農・環境概論（一コマ），植物病理学概論，外国文献講読，土壌微生物学，熱帯植物病理学，卒業論文および大学院担当科目，植物病理学特論，植物病理学特別演習，熱帯植物生産学特別研究，熱帯農学特別演習，熱帯農学特別研究を規定時間数（16コマ：テストを含む）をこなすとともに，その内容の向上に努める。	0.50	左記設定目標をすべて達成した。各教科の試験問題，解答，答案および成績表はエビデンスとして学務係に提出済み。
研究	0.20	卒論および修論研究の指導と並行して，植物病理学分野の中から特に環境低負荷型の植物病防除の研究を行い，その成果を発表するとともに論文の執筆を行う。	0.20	卒論のテーマとなったアワユキセンダングサ抽出液を用いた土壌線虫の防除に関して研究内容をさらに進化させ，防除効果を高める技術を開発した。
社会貢献	0.10	沖縄県有機農業普及会会長，沖縄県有機農業推進会議副会長および美らマンゴー普及確立モデル事業推進協議会の顧問として，有機農業技術の普及及びマンゴー炭疽病の効果的防除法についてこれまで培った知識を基に貢献する。また過去2年にわたって出演しているFMとよみに毎月第2土曜日に今年もゲストとして出演し，各種科学	0.10	沖縄県有機農業普及会では2度にわたって，有機農業にあり方や病害の耕種的防除法に関する講演を行った。有機農業推進会議では数度の会議に出席し有機農業に関するアドバイスを行った。また，FMとよみでは毎月第2土曜日に’地域に貢献する番組ラ．マジュン’で特に地域農業に関する講話を行った。
管理運営	0.10	地域貢献担当副学部長として，地域の農業や市民生活に資する講演会を開催する。資料館長としての運営を担う。運営会議や人事委員会の委員として学部運営に貢献する。	0.10	地域貢献担当副学部長として，教授会，代議会を円滑に行うための運営会議に出席した。各種委員会に出席するとともに，学部長代理として経営協議会などに出席した。1月10日に開催された「第4回地域貢献シンポジウム」をの企画・立案を行った。
進路指導	0.10	学部および大学院の学生の進学・就職率を向上させるための指導・啓蒙に努めるとともに，県内外の就職先開発の活動を行う	0.10	学生の進路指導をおこない，本研究室所属の4年次学生の就職率アップに助力した。卒業予定者3名とも内定が決定。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	諏訪竜一	所　属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う ・講義分野を学生が他人に教えることができるような理解しやすい講義を行う ・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。	0.35	・講義作物学および熱帯エネルギー作物において世界の食料問題、食糧生産に関する知識、石油、原子力等の代替エネルギーとして注目されているバイオマスエネルギーの知識、活用方法、、また解決しなければならない課題などの講義を行った。熱帯植物学実験の学生達や指導学生に、圃場、植物工場での作物および野菜類の栽培方法、利用方法を実践した。
研究	0.40	・学会誌への投稿、発表・新技術の開発を行う ・他研究室と積極的に交流を行い情報を共有し、本大学の研究成果の向上に努めるとともに相互の研究室のレベルアップに努める ・地域に貢献する研究課題を遂行する	0.40	他の研究室との共同での研究あるいは他分野の研究者との実験などを行い、技術と知識の共有に積極的に勤め、互いのレベル向上に努めた。これらの成果により論文や発表などが行われた。また、地域課題に関連する研究もこの中に含まれている。
社会貢献	0.10	・国際貢献としての具体的取組（JICA研修等） ・地域産業としてのサトウキビ研究の発展に努力する ・沖縄農業研究会等の地域の農業を担う研究会の運営を行う ・植物工場等の研究を通じた地域への貢献を行う	0.10	JICA研修で国内視察研修の引率および講義を行った。また、サトウキビや植物工場等の地域研究を積極的に行った。さらに沖縄農業研究会、沖縄型植物工場学会の運営を行った。
管理運営	0.05	・センターおよび二次試験での監督等を行う ・高校生に対する本大学の紹介等、努めて営業活動を行う・学科長等の管理職の加重な負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める	0.05	センター試験、二次試験の監督を行った。オープンキャンパス等で高校生に対する講義を行った。できる範囲内で学科長等の管理職の方への協力を心がけた。
進路指導	0.10	・3年次指導教員として就職活動に対する意識を認識させるよう取り組む ・就職活動を行う学生達の履歴書、エントリーシート、面接等に対する疑問に対して、研究に対する質問と同様に深いレベルで対応する	0.10	進学予定者に対して、技術および知識の教授を積極的に行った。3年次指導教員として進路などの相談を含めた会合を開催した。就職活動に対する支援として、就職をした自分の同級生や後輩などから、学生に対してそのノウハウと情報交換を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田場　聡	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	植物病理学実験（選択必修）では実験方法の把握だけでなく、デモンストレーションを行うとともにパワーポイントなどを用いて項目別に解説し理解を深めさせる. 植物線虫学では研究室で得られた最新のデータを多くの写真や動画で紹介し、当該研究分野に対する興味と理解を高める. 情報処理演習では、パワーポイントの作成についてソフトの使い方だけでなく専門的な文書作成要領をもとに練習し習得させる. 植物病理学特論では、亜熱帯性病害について各病原体の最新の診断および防除法について紹介し、現場に即した研究を題材に議論し、実学的な研究について考察する. 熱帯植物病理学特論では、沖縄で問題となる課題についてゼミ形式で授業を行い、当該分野の専門的知識を深めさせる. 亜熱帯農学特論では「有機農業」について病理学的視野からのアプローチについて紹介し、環境保全型農業への関心を高める. 植物病理学研究室の学生に対しては論理的思考能力およびアピール能力の開発を目的としたゼミナールを週1回（2人）行う.	0.30	植物病理学実験ではパワーポイントにより写真や図を駆使して解説した結果、学生の理解が深まった. 情報処理演習では文書・スライド作成能力が向上しただけでなく、実際にプレゼンを体験させたことで表現力を向上できた. 植物線虫学では動画、DVDおよび実践的なデータを用いることで当該分野の学力を向上できた. 英語文献講読Ⅱではニュース英語（科学）を教材に用いたため学習意欲を向上できた. また関連内容に関する情報収集により自然科学関連の情報量が向上した. 植物病理学特論では、果樹病害と診断法について実学的な内容の講義により応用研究の重要性が理解できた. 熱帯植物病理学特論では問題意識を持って課題に取り組む自発性と解決力の向上に寄与できた。亜熱帯農学特論では、最新の環境配慮型防除法を紹介し食の安全・安心に対する興味を向上できた. ゼミナールでは論文を講読してパワーポイントで発表後、ディスカッションを行い、学部3年次から修士課程の学生を含む計7名の能力向上を図った. 今後も継続し、問題点あれば改善を行う.
研究	0.35	国内の和文誌（2誌）、英文誌または外国誌（1誌）に論文を投稿し受理を目指す. 日本植物病理学会、沖縄農業研究会などにおいて発表を行う. 競争的資金などで採択された研究課題や特許を発展させ、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究をさらに推進することで実社会に応用できる技術の研究開発に努める.	0.35	日本植物病理学会報に4報、熱帯農業2報受理または掲載された. 現在は外国誌に1報投稿準備中である. 日本植物病理学会本大会1課題、沖縄農業研究会に2課題発表を行った. 外部資金については、県外企業からの受託研究1件を受け、成果の特許出願を予定している. 現在は2企業（県外1、県内1）から受託試験（植物抽出液の農業利用の可能性、品種間線虫感受性検定）受け入れを検討中である. また県外企業1社と共同研究を行っている他、1社と秘密保持契約を結び共同研究を検討している. さらに県外企業との共同研究により線虫製剤を開発し現在試験販売を行っている. その他、松枯れ病の防除法に関する特許申請を行った. 沖縄協会主催の第34回沖縄研究奨励賞を受賞した.
社会貢献	0.15	セミナーや研究会に積極的に参加・発言し、県内で行われる病害虫関連の研究や産官学連携推進に尽力する. 国内で開催される講演会などで講演を行う.	0.15	委員会等では積極的に参加し協力を行った. 特に第4回農学部シンポジウムでは会場係として尽力した. アグリビジネス創出フェア2013ではパネル発表および講演を行い、有害線虫関連の共同研究および商品開発の宣伝を行った. また3月にJA南風原にて有機農業セミナーを、8月には沖縄市主催の若手就農者育成を目的とした講演会を行った. その他、沖縄TLO主催の産官学連携推進ネットワーク形成事業会議にて事業審査および研究・商品開発に関するアドバイスを行った. 沖縄農業研究会が開催する50周年記念シンポジウムにおいて講演を行った.
管理運営	0.10	地域貢献支援委員会、入試委員会および風樹館運営委員会などの委員会活動に積極的に参加する.	0.10	出張などにより完全な出席はできていないが、80%以上の出席率で貢献を行った.
進路指導	0.10	学生の積極的な学会参加を促し、修士および博士課程への進学率を高める. また就職の場合は、生物系および農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む.	0.10	修士課程1年次および4年次が沖縄農業研究会においてパネル発表を行った. 積極的に修士課程への進学を促した結果、新4年次1人が修士課程に受験を希望している. 就職関連では4年次2名が県内、1名が県外企業に就職が決定した.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	建 本 秀 樹	所　属	農学部・亜熱帯農林環境科学科	職　名	教 授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	前年度は，これまでのFDワークショップで得た経験を積極的に講義内に導入することで学生の理解力への向上心を刺激するよう心掛けた。今年度は，学生との距離を縮めた対話型の講義スタイルをさらに推し進めていきたい。また，TAと共に，卒論研究時に生かせるような実践的な演習や実習を実施する。	0.35	FD委員会が主催した高い授業評価を受けた公開授業に参加し，そこで得たノウハウを自分の講義内容に活用した。特に，学生に考えさせる時間を講義中に設け，対話型の講義スタイルへを実施する努力を行った。また，研究室ゼミに3年生も参加させ，一層の活性化を図った。これらの効果は，学生による授業評価アンケートの結果からも好評価を得ていると推測される。
研究	0.40	大学院修士課程ならびに鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)の学生等と国際学術雑誌への2報以上の研究論文の採択と共に，関連学会での2演題以上の学術発表を目指す。また，科研費等の外部資金を獲得し，関連機関との共同研究を継続し，地域に貢献できる研究成果の達成に努める。さらに，日本暖地畜産学会の編集委員としてJ-STAGEへの電子ジャーナル化作業を担い実施する。	0.40	外国雑誌に4報の学術論文が掲載された。一方，学会での学術発表は1演題であったが，日本暖地畜産学会での編集幹事としての電子ジャーナル化の作業や大会プログラム作成等の職務は達成できた。また，今年度から新たな科研費を獲得し，琉球在来豚アグー精子の凍結保存に関する研究を実施している。
社会貢献	0.10	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に委員として出席し，今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また，関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ，要望があれば出前講座等を実施したい。さらに，「アグー保存会」との連携をさらに深め，純系アグーの保存に貢献する。	0.08	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し，今後のアグーを活用したブランド豚事業に関して積極的な発議を行った。また，沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として，純粋系アグーの維持・管理の指導，ならびにブランド豚チャーグーの生産に研究協力を行った。
管理運営	0.10	広報委員会，危機管理委員会等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に，会議等への出席率を80%以上にする。そして，昨年度と同様，オープンキャンパスと入試に関する担当業務を滞りなく実行する。	0.10	今年度は，学科会議や学部教授会に90%以上の割合で出席し，担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また，広報委員としてオープンキャンパスでは，会場設営やアンケート回収等の多くの責務を果たせたと考える。
進路指導	0.05	研究室に配属されている学生の進学指導や就職の斡旋を積極的に行い，今年度も100%の進路決定率を目指す。特に，就職に関しては，研究の関係上，不妊治療機関での胚操作技師の求人情報を学生に紹介したい。また，大学院への進学率向上にも貢献したい。さらに，2年次生のチューターとして他の3名のチューターと協力して，2年次学生の生活・進路指導（特に，分野配属の指導）を積極的に行う。	0.07	研究室に在籍する修士2年次および学部4年次の学生に対しては，沖縄県職ならびに民間企業への就職サポートさらには大学院等への進学指導を行い，3名の学生の進路を確実なものとした。また，年次指導教員チューターの一員として，2年次学生の生活・進路指導を行うと共に，学生のコース配属と研究室配属を実施した。そして，その作業工程の中で学生からの問い合わせに対して積極的に応じ，的確な進路指導が出来たと思われる。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	砂川　勝徳	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部担当科目（家畜生理学、家畜環境生理学家畜解剖生理学実習、外国文献講読Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ、動物機能学、食・農・環境概論）、および大学院担当科目（動物生理学特論、亜熱帯農学特別演習Ⅰ～Ⅳ、亜熱帯農学特別研究Ⅰ～Ⅳ、農学研究の方法、農学研究の最前線）を担当し、学生の専門的知識の理解度を向上させる講義を行うと共に、課題解決能力を培い、論文の作成および発表を通して、表現力を向上させる体験学習を行う。	0.35	学部学生および大学院学生の専門的知識の理解度を向上させる講義および課題解決能力を体得する体験学習を行うことができた。また、「融解する境界－やわらかい南の学と思想・２－（琉球大学編）」を分担執筆し、高校生を含む一般社会への琉球大学の紹介に努めた。鹿児島連大博士課程学生の指導教員を務めた。
研究	0.40	大学院生および学部学生と共に研究を遂行し、研究論文(2報以上)の学会誌等への採択を目指す。 また、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	0.40	研究論文（1編）が学会誌Asian-Australasian Journal of Animal Sciencesへ掲載された。また、研究論文（2編）が学会誌Asian-Australasian Journal of Animal Sciencesへ投稿され、審査中である。
社会貢献	0.10	当研究室で開発した成長速度の速い大型肉用ヤギを沖縄本島や宮古島および多良間村の農家へ導入し、地域の活性化を推進する。	0.10	離島地域活性化事業(沖縄県宮古郡多良間村)において、当研究室で開発した成長速度の速い大型肉用ヤギを用いてヤギの増産体制を確立した。また、平成21年度おきなわ山羊振興活性化事業推進のため、協議会委員として、活動した。さらに、ヤギの普及を拡大するために、人工授精師の資格を取得した。
管理運営	0.10	学内委員会委員（2）などの委員会活動に積極的に参加する。	0.10	鹿児島連大主指導教員として、博士課程学生の学位取得を支援する取り組みを行なった。また、学内委員会委員（2）などの委員会活動に積極的に参加し、学生に対して充実した教育ができるように尽力した。
進路指導	0.05	卒論学生および大学院生に対して、早目に自己の希望する進路を決定して、希望する進路に進めるように、対策を立てて準備をするように指導する。	0.05	学生の進路先開拓のために、畜産農家を訪問した。また、修士課程修了生（1名）が国家公務員試験へ合格できるよう指導を行い、合格させることが出来た。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長　嶺　樹	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部担当科目（動物機能学、動物解剖生理学実習、外国文献講読Ⅰ・Ⅱ、情報科学演習、卒業論文Ⅰ・Ⅱ）を担当し、講義を行う。学生にとって、分かりやすい講義を行うように努力する。	0.35	学部教育に関しては目標を概ね達成した。ただし、説明が十分にできなかった部分があったので、改善していきたい。
研究	0.50	大学院生および学部学生と共に研究を遂行し、研究論文(2報以上)の学会誌等への採択を目指す。また、研究成果を学会等で発表する。	0.50	現在、大学院生および学部学生と共に研究を遂行しており、その成果をまとめた論文1編（主著）が学術雑誌に掲載された。また、現在、研究論文（主著および共著）を学会誌へ投稿し、審査中である。外部資金の獲得については、科研費に応募し、審査中である。
社会貢献	0.07	当研究室で開発した成長速度の速い大型肉用ヤギを沖縄本島や宮古島および多良間村の農家へ導入し、地域の活性化を推進する。	0.07	砂川教授とともに、新規就農者の支援（ヤギの飼育方法、ヤギ農家の紹介、訪問など）を行った。また、農家において、飼養管理について、指導を行なった。
管理運営	0.03	学内委員会委員（3）などの委員会活動に積極的に参加する。	0.03	学内委員会委員（3）などの委員会活動に積極的に参加した。
進路指導	0.05	年次指導教員として、他の指導教員と協力して、学生が進路を決定できるように、また、標準年限内に卒業できるように指導を行う。	0.05	年次指導教員として、前期・後期の年次別懇談会に出席し、学生の就学指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	谷口真吾	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部講義は、専門用語の意味する定義と基礎定理・法則の理解に重点を置く。講義ごとに毎回配布する副資料を改訂し、内容の充実を図る。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行う。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義を行う。目標達成のために、特に最近の学会等で公表された新しい知見を盛り込んだ特論を行うとともに、研究発表の仕方、研究計画書の書き方、具体的なデータに対する議論、論文の書き方など、具体的な演習を随時、講義の中に組み込む。.	0.35	学部講義は、専門用語の意味する定義と基礎定理・法則の理解に重点を置き、講義中解説に多くの時間を割いた。講義ごとに毎回配布する副資料を最新のものに改訂し、内容の充実を図った。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行い、次週の講義冒頭に解説した。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義を行った。目標達成のために、特に最近の学会等で公表された新しい知見を盛り込んだ特論を行うとともに、研究発表の仕方、研究計画書の書き方、具体的なデータに対する議論、論文の書き方など、具体的な演習を随時、講義の中に組み組み込んだ。.
研究	0.40	今年度内に日本森林学会誌ならびに、森林応用研究会誌にそれぞれ1編以上の論文投稿、受理・採択を目指す。日本森林学会第124回大会、ならびに九州森林研究学会、森林応用学会で研究発表を行う。大学院生には亜熱帯森林研究発表会での発表を経験させる。	0.35	当初、日本森林学会誌、森林応用研究会誌に投稿予定であったが、結局、今年度内は日本緑化工学会誌と沖縄生物学会誌にそれぞれ1本づつ投稿中である。両誌とも近々受理される予定。第124回日本森林学会大会、ならびに九州森林研究学会ではポスター発表と口頭発表を実施した。森林応用学会、亜熱帯森林研究発表会は海外調査と合致し研究発表は実施できなかった。
社会貢献	0.10	沖縄県と沖縄県森林資源研究センター、鹿児島県森林研究所、森林総合研究所九州支所の4者による内閣府一般公募研究に採択されることを目標に研究プロジェクトを立ち上げる。沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、問題点および解決課題の抽出を行う。	0.10	沖縄県と沖縄県森林資源研究センター、鹿児島県森林研究所、森林総合研究所九州支所の4者による内閣府一般公募研究に採択された。沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、問題点および解決課題の抽出を定期的に実施した。
管理運営	0.10	各種の委員会活動に積極的に取り組む。教授会、学科会議、分野会議、研究科委員会への出席率を高める努力を行う。	0.10	各種の委員会活動に積極的に取り組んだ。教授会、学科会議、分野会議、研究科委員会への出席率はそれぞれ90%以上である。
進路指導	0.10	専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行う。公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施する。さらに、大学院の進学率を高める指導も行う。	0.10	専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行った。公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施した。さらに、大学院の進学率を高める指導を積極的に行った。その結果、造林学研究室を専攻した卒業、終了見込み学生、計6名のうち、公務員4名（林業職2名、消防職1名、警察職1名）、農学研究科大学院進学2名の内定が決まった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	井上　章二	所　属	農学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部においては前学期：森林水文学、森林環境学、森林科学概説、外国文献講読Ⅰおよび卒業論文Ⅰなど、後学期：森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習、プレゼンテーション演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。また、連大関連では講義「農水圏資源環境科学特論Ⅲ」を分担し、2名の学生の主指導教員として、3名の学生の副指導教員として指導を行う。研究室の学生、院生に対しては週1～2回のゼミを確保し、修士学生1名、卒論学生4名を指導する。	0.35	学部、研究科すべての授業に対して全力投入したが、一部行き届かなかった面もあると思われる。しかし、休講も最低限であり、補講の実施等も含め及第点であると自己採点できる。研究室ゼミも週最低1回は確保した。連大の授業、学生指導に関してもほぼ及第点と言える。
研究	0.20	今年度は特にファンドは得ていないが、東日本大震災を受けて海岸林の防災に関する研究を引き続き進める。また、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。	0.15	海岸林学会日韓合同大会(釜山)において発表を行った。また、日本雨水資源化システム学会誌および海岸林学会誌等への投稿論文の審査が終わり掲載された。しかしながら、年間を通じての業務ウェイトが教育と管理運営、特に教育において当初予定より膨張し、結果として研究に割けるウェイトが圧迫された。
社会貢献	0.15	日本雨水資源化システム学会の事務局長としての責務、また、日本海岸林学会評議員、森林利用学会理事の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林技術センター等との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。	0.15	雨水資源化システム学会の事務局長としての業務がかなりのウェイトを占めた。学会誌の発行、大会の主催、および学会経理事務等職責を果たした。その他の2学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。沖縄県との連携については話し合いを通じて次のステップに進めた。
管理運営	0.30	全学的には教育研究評議会、利益相反マネジメント委員会、全学教育委員会、大学院委員会の委員としての責務を果たす。また、島嶼防災研究センターの併任教員としてセンターのスムーズな管理運営に努力する。農学部では、副学部長として学部長を補佐し、教育委員会および研究戦略会議では委員長としての務めを果たす。その他、代議会、将来計画委員会、自己評価委員会、人事委員会、中期目標・中期計画推進会議、安全衛生委員会の委員としての責務を果たし、大学、学部の管理運営に努める。	0.30	全学委員会、および各種学部委員会に出席または委員会を主催し、できうる限りの時間を割いて大学、学部、学科の管理運営に努めた。
進路指導	0.05	3年次学生にキャリア実習への積極的参加を呼びかける。3年次、4年次および大学院の学生に対して公務員試験や民間企業の求人等の情報（これまでに就職先開拓のために訪問した企業の情報を含む）を提供する。研究室の専攻生はもとより、その他の研究室、学科を問わず相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスを行う。	0.05	キャリア実習に関しては学生の希望先と交渉したがすべて不調に終わった。求人情報などは速やかに提供し、希望学生にはアドバイスを与えた。その学生は受験し合格した。また、大学院への進学もアドバイスし、一人が本学研究科へ入学予定である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松本　一穂	所　属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	講義では基礎知識を十分に理解させつつ、最新知見についても随時紹介していく。実験ではフィールド調査や機器分析センターを利用した分析なども取り入れ、学生が知的好奇心を高めつつ、理解を深めることができるような内容にしていく。学生からは毎回、意見や疑問点、質問等を聴取し、内容の改善に役立てる。卒業研究では計画立案から研究遂行、論文作成までをきめ細やかに指導しつつ、学生に主体的に取り組ませることで、学生の問題解決能力の向上を目指す。	0.40	講義では重要項目を抽出して再構成した資料を配布し、関連分野の基礎知識を容易に理解できるよう工夫した。また、毎回学生から講義内容に関する意見や質問を聴取し、講義の改善に役立てた。実験では、学生－教員間の双方向型ディスカッションをベースにフィールドや機器分析支援センターで調査・分析を行うなど、学生の興味や主体性を引き出すための新たな取り組みを行った。卒業研究に対しても、学生とのディスカッションをベースに、学生の主体性を尊重しながら計画立案から研究遂行、論文作成まで、きめ細やかな指導を行った。
研究	0.30	沖縄県の研究事業に参画し、県北部の照葉樹林に森林の水・熱・炭素交換量および森林環境調査のための観測タワーを建設し、亜熱帯林の生態系機能の解明に向けた各種調査研究を開始する。また、マレーシアの熱帯雨林およびカンボジアのゴムプランテーションの生態系機能に関する調査も継続して行う。一方、これまで得られたデータの解析も進め、国際学術誌に1報以上の投稿を目指す。	0.30	沖縄県の受託研究事業の一環として、附属フィールド科学教育研究センター与那フィールドに亜熱帯林の水・熱・炭素交換量および生態環境調査のための観測タワーを設置した。年度末には蒸発散量と各種気象要因の観測を開始する予定である。また、海外調査も引き続き実施し、マレーシアの熱帯雨林では群落スケールの水・熱交換量や枯死木分解呼吸量の空間変動を明らかにし、カンボジアではゴムプランテーションの水消費量を解明した。これらの成果の一部は年度末に学会発表するとともに、今後投稿論文化する予定である。なお、本年度は共著論文1本が国際誌に受理されている。
社会貢献	0.10	昨年度に引き続き、沖縄県や同森林資源研究センターと連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深める。また、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場から問題点の抽出や解決策が立案できるよう準備を進める。	0.10	沖縄県森林資源研究センターと密に情報交換を行い、沖縄県の森林をめぐる諸課題について理解を深めた。また、南西諸島の持続可能な森林管理手法に関する沖縄県の委託研究事業に対して、森林総合研究所、鹿児島県等との共同研究事業体として申請し、採択された。
管理運営	0.10	教授会や学科会議に積極的に参加し、議論に加わるとともに、各種委員の仕事にも積極的に取り組むことで、農学部や亜熱帯農林環境科学科の管理運営に貢献する。	0.10	出張・研修時を除いて教授会と学科会議には積極的に参加し、農学部や亜熱帯農林環境科学科の運営体制の把握に努めた。また、入試委員やセンター試験監督者を務め、積極的に学部の管理運営に参画した。
進路指導	0.10	進路に関する話合いを多く持ち、それを基に学生の希望する進路について情報収集を行う。また、様々な大学研究者、公務員、会社員を通して、人事情報や具体的な採用情報を得て学生に提供する。研究者を目指す学生に対しては、卒業論文指導や大学院教育を通じて、早い段階から投稿論文を投稿できる体制を整えるなど、将来研究者として職が得られるよう、質の高い指導を行っていく。	0.10	学生との間で進路に関する話し合いの場を多く持ち、進路希望の途中変更などについても臨機応変に対応した。また、次年度から研究室配属を希望する学部3年生に対しても、希望する進路を聴取し、就職活動と卒業研究遂行との両立などに関する相談にのった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	亀山統一	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	改組等により特に前期に講義・実験が集中し、かつ内容を改訂し開設する科目もあるので、全ての授業科目について計画的に準備し、シラバスの目標を達成する授業を行う。樹木医補資格の新学科における認定申請業務を行う。	0.35	森林コースの教育実態にあわせ、森林植物学実験・森林保護学の2科目の教育内容を一新した。他の開講科目も、シラバスを適宜改善し、その目標達成に努めた。樹木医補資格の新学科における認定申請業務を完遂した。
研究	0.43	科研費（基盤研究(C)）が3年度目になるので、研究のとりまとめにむけ推進する。マングローブ病原菌・内生菌研究を中心に、これまでの研究のとりまとめを行い、1報以上の論文を書く。樹木医学会と日本森林学会で研究発表する。研究紹介のウェブページを更新する。	0.35	科研費（基盤研究(C)）が3年度目になるので、年度末に向け研究のとりまとめ中である。1報の論文を執筆中である。樹木医学会と日本森林学会で研究発表した（後者は3月予定）。研究紹介のウェブページを更新した。また、来年度の科研費（基盤研究(C)）の申請を行った。
社会貢献	0.15	出前講座を提供するなどし高大連携を進める。教職免許更新講習に協力する。樹木医学会、日本科学者会議、日本緑化センター、亜熱帯森林林業研究会等の学会・専門団体の役員として貢献する。専門知識を通じて市民の科学的活動に協力貢献する。	0.18	高大連携では出前講座を2校で、来学対応を1校に対し行い、次年度の出前講座・公開講座開講に応じた。教職免許更新講習を開講し、次年度の開講に応じた。樹木医学会編集委員、日本科学者会議常任幹事、日本緑化センター樹木医補担当、亜熱帯森林林業研究会幹事等として活動した。県のプロジェクトの委員に就任した。泡瀬干潟・浅海域生態系の環境影響についての地域協力貢献をなした。
管理運営	0.10	教授会・学科会議は、やむを得ない出張をのぞき最優先で出席する。いずれも、学生実験と時間が重なるので両立を工夫する。就任した委員をよく務め、大学運営改善に努める。オープンキャンパスの成功に努める。	0.10	教授会･学科会議は、やむを得ない事情のあった場合を除き出席した。環境・交通・施設等委員として学部の違法駐車取締に多大の労力を提供した。入試監督・大学院入試問題作成採点等の委員を務めた。オープンキャンパスでは、コースのポスター作成を担当し、研究室開放と体験アグリサイエンス科目提供に応じた。
進路指導	0.02	本年度は年次指導教員の任がなく、卒論指導の学生もないので、講義等を通じて樹木医補資格をはじめ専門分野での資格・進学・就職等の道筋を立てる援助をする。	0.02	2年次に樹木医補資格取得他の指導をおこなった。3年次の講義･演習科目登録者に対して、就職･進学相談等の援助を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	辻　瑞樹	所　属	農学部亜熱帯農林環境科学科	職　名	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	博士3年次学生には年度内に学位取得させるべく指導する。連大の特論（SINET3で中継）の新規担当になるので十分準備しとりくむ。学部の授業では昨年度明らかになった課題を克服するよう努める。	0.20	博士3年次学生は2報目のアクセプトが締め切りより5日おそく届き，残年ながら年度内に修了できなかった．しかし2月後の現在では当該学生は国際誌3報論文Iがある.SINET授業は準備したが受講者ゼロだった．学部の講義のスライドを小改訂した．
研究	0.20	継続中の基盤（B）海外学術調査の研究をさらに発展させるべく北米フィールド調査に赴く。また米国人研究者を招聘する。本年度は科研費の新規課題の獲得に失敗したため、次回の採択を目指しアイデアをねる。これまでの成果の論文化を目指す。IF4.0以上の国際誌に2報以上掲載を目標.	0.20	継続中の基盤（B）海外学術調査の研究をさらに発展させるべく北米フィールド調査に赴いた。コスモス財団に推薦していた米国人研究者をE.O.Wilosn博士が」ぶじ受賞し日本に招聘，辻が日本地区会長をつとめるIUSSInによるシンポを京都で主催した。科研費の新規課題に2つ応募した．IF4.0以上の国際誌に2報以上掲載の目標はぎりぎり達成された（Tsuji 2012 Evoution IF 5,146，Dobata and Tsuji 2012 PRSLB．IF 5.415）．
社会貢献	0.20	国際昆虫学会大会（韓国）でシンポジウムをオーガナイズする。行動科学事典の編集を行う。学術会議の連携会員とし各種活動を行う。生態学会の常任委員（将来計画委員長）として各種活動を行う。沖縄県環境影響審議会の委員としての活動を行う。	0.20	国際昆虫学会大会（韓国）でシンポジウムを無事オーガナイズできた。行動科学事典の編集を現在も行っている。学術会議の連携会員とし各種活動を行った。生態学会の常任委員（将来計画委員長）として各種活動を行った。沖縄県環境影響審議会の委員としての活動を行う。これ以外にコスモス財団賞に関連したシンポをオーガナイズし開催した．
管理運営	0.20	連大代議委員として運営に参加し、今年はとくに一般セミナーと人材養成セミナーの担当が琉球大学であるためその重責を果たす。農学部の各種委員、および一年次指導教員としての責務をは果たす。	0.20	連大代議委員として運営に参加し、一般セミナーと人材養成セミナーの両方を琉球大学で無事開催することができた．さらに2月末には臨時経費により連大主催の昆虫学分野の3日間のセミナーを企画し実現した．普通の代議員（例：去年の私）のたぶん10倍は働いたとおもう．農学部の各種委員、および一年次指導教員としての責務につとめた。
進路指導	0.20	4年次修士2年次指導生全員の3月までの進路決定を目指し指導する。連大の人材養成支援セミナーを修士や学部生にも聴講させ、キャリア意識を高めるよう指導する。	0.20	4年次修士2年次は臨時職や進学も含め全員が進路決定している．連大の人材養成支援セミナーをビデオ収録し修士や学部生にも聴講させた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	鬼頭　誠	所　属	農学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目（前期: 土壌肥料学実験、環境化学実験、外国文献講読、卒業論文Ⅰ、後期: 食料生産と環境、熱帯肥培管理論、肥料と環境、卒業論文Ⅱ）を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目（植物生理生態学特論、特別演習、特別研究）についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当する。	3.00	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。
研究	0.30	修士過程学生及び学部学生と共に研究成果の学会発表と研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得を目指しつつ、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	3.00	学部、修士学生や他機関の研究者と共に研究を行い、関連学会において3題の発表と全国誌に1編の論文を投稿した。外部資金としては、日本環境財団から未利用農地の利活用に関する受託研究を受け入れた他、国際農林水産業研究センターと共同研究を行い実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。また、九州沖縄農研センターの研究員とともに沖縄におけるソバの生産に関する試験を開始し、科研費など研究助成の申請を行った。
社会貢献	0.20	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。学内外の関連研究機関等との共同研究の成果を応用し、沖縄および熱帯・亜熱帯地域の社会貢献を行う。また、県内外の高校等への出前講座を実施に向け高校関係者との意見交換等の準備を行う。	0.20	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、久高島における耕作放棄地対策に関わる現地試験を行った。その他、農研機構の沖縄を対照にしたプロジェクトのアドバイザーとしてプロジェクトの遂行に対する助言を行うとともに成果に対する評価を行った。また、一般公開授業を開講し、4名の受講生を受け入れた。
管理運営	0.15	全学の研究・国際貢献に関する自己点検・評価委員会などの委員会委員として学部との連携を図りつつ中期計画の達成に協力する。また、学部各委員会委員として学部運営に協力する。	0.15	大学評価センター評価委員会、研究・国際貢献に関する自己点検・評価委員会大学探求編集委員会などの委員会活動に積極的に参加し、中期計画実績報告書および次年度中期計画案の作成に協力した。また、学部における各種委員として学部運営に協力した。
進路指導	0.05	学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時などに進路指導上の情報収集に努める。	0.05	学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時に進路指導上の情報、特に国内での技術系職、海外での支援活動に関する情報の収集に努め、海外支援活動を希望する学生の進路決定に至った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	6.40	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	立田　晴記	所　属	農学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	卒業論文，修士論文，博士論文の研究計画策定のサポートを行い，データ取得から解析まで，一通りの技術を身につけられるように指導する．学部および大学院向けの講義を行い，卒業研究を実施するための基礎学力の底上げを図る．	0.40	左記論文作成の研究指導を実施した．また講義や実験などから，データ解析手法に関する知識を吸収する機会を設け，基礎学力の向上に努めた．
研究	0.40	今年度終了する競争的資金（三井物産環境基金）に関連する研究プロジェクトの研究成果をとりまとめ,論文を1本執筆・投稿する．またその他論文を1報以上学術国際誌に投稿する．新たに始まるプロジェクトについても実験調査を開始する．また新たな外部資金獲得に向けた研究シードの発掘を行う．	0.40	絶滅危惧種の保全に関する論文1報を執筆し，投稿した．また競争的資金に関連する研究プロジェクトについては，現在研究論文を準備中であり，来年度の早い時期には投稿にこぎ着けたい．また過去の研究データに関する論文2報が国際誌に受理され，掲載された．またエコゲノミクスに関する自書（分担執筆）が出版された．
社会貢献	0.05	日本昆虫学会から執筆依頼を受けている論文レビューを仕上げて，投稿する．またオンライン国際学術誌(Dataset Papers in Zoology)の編集委員として雑誌編纂に協力する．	0.05	レビューは3月下旬までには完成予定．またJournal of Ethology, Applied Entomology and Zoology誌の副編集長(Associate Editor)業務が開始された．
管理運営	0.10	各種委員会委員としての職務を全うする．	0.10	主に教育委員会委員として，URGCC冊子の編集等作業と月例会議出席をこなした．
進路指導	0.05	学生が希望する進路に進めるよう，適宜指導を行う．	0.05	公務員や民間企業へ学士，修士修了予定者が就職先を決めた．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金城　和俊	金	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授	准

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させる。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。	0.35	学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、土壌環境科学、環境土壌学および土壌肥料学実験を担当した。さらに大学院担当科目である、土壌学特論の講義も担当した。また、共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用法について講義を行った。担当講義において適宜レポートを課し、グループ学習も行い、講義へ積極的に参加させた。
研究	0.40	2012年度日本土壌肥料学会(鳥取大会)と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は日本土壌肥料学雑誌に約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。	0.40	2012年度の日本土壌肥料学会(鳥取大会)にて研究発表を行った。共同研究を民間企業と行っており、2013年度も継続研究を行う予定である。日本土壌肥料学雑誌に論文が1報掲載された
社会貢献	0.10	県内の他大学、県の研究機関や民間企業と常時、情報交換を行い、お互いの研究や業務に活かすことに努める。また、研究集会などを開催し、研究結果などを広く伝えるために努力する。	0.10	沖縄県総合教育センターおよび沖縄市農林水産課より、講演依頼を受け、計4回行った。また、与那原小学校にて環境教育の一環で、土壌の授業を行った。
管理運営	0.05	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。	0.05	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努めた。 オープンキャンパスでは研究室で体験実験を行い、高校生に研究について理解しやすいように説明を行った。センター試験監督をはじめとする様々な管理運営に関する業務を積極的参加した。
進路指導	0.10	学生の希望進路に関する相談を常に受け、その都度、情報提供を行い、学生の就職支援を怠らない。また関連企業に学生の就職に関する相談を行う。	0.10	就職試験に関わる履歴書作成の上で、添削やアドバイスを行った。適宜、面接対策のために資料提供や面接の練習を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。